



令和8年度 佐久市立佐久平浅間小学校グランドデザイン ～知識の苗を知恵の木に～

校長の想い

The next decade 主人公は子どもたち

令和6年に開校から10年の節目を迎えた本校は次の10年(The Next Decade)を見据えた学校づくりをすすめています。私たち教師集団は、これまで大切にしてきた「笑顔・授業世界基準」の伝統的な合言葉に加えて、「主人公は子どもたち」をThe Next Decadeの合言葉にすることにします。「知恵の木科」や教科学習での探究的な学び＝児童が関わりを見出し、自分で考え、自分の言葉で表現し、友だちや教師と織り上げる深い学び＝を大切にします。この学びは、これからの社会を生き抜くために必要な資質能力だからです。また、3つの愛言葉の意味を子どもたちと見つめ直し、安心して生活できる人間関係をつくるサポートをしていきます。さらに、夢やあこがれの持てる時間づくりをめざします。

【佐久市教育大綱】主体性・創造性・継続性を大事に共に生き、伸びようとする豊かな人間性 3重点「読む」「書く」「行う」

学校教育目標

『みんなの中でわたしになる』

～ちがいをチカラにかえる学校～

めざす子ども像 ○心と体をはたらかせて共に学ぶ子ども ○寛容の心を持ち、誠実で笑顔あふれる子ども

【地域の願い】

1. 将来の自分をつくるために、たくさんの経験を積み生活の中で活用できる力を身につけてほしい
 - ① 友達や地域の方とコミュニケーションする力(あいさつができる子、いじめのない学校)
 - ② 社会の中で生きるための確かな学力
2. 子どもを育てる周りの大人の力をたくさん活用してほしい
 - ① 信州型コミュニティースクールへの協力
 - ② 毎日の生活の中でのサポート(見守り隊の活動、子どもへの声かけ、保護者との連携)

将来の夢や憧れを膨らませる 【知恵の木科】の充実 ～【ひと・もの・こと】のかかわり～

1 子どもと教師が解なき問いに一意専心して取り組む 探究的な学び「学級の宝」活動(中核活動)
○問いをもち、その解決に向けて試行錯誤したり、アウトプットとフィードバックを繰り返したりすることで学びを深化させる。

1～2年生

自身の将来についてのおぼろげな想い描き

体験を通して地域を知り
課題：学校の周りや地域には、どんなものやこと、ひとがあるのだろうか？
探究すること：身近なものやこと、ひとと夢中になって関わり

3～4年生

知識の苗を知恵の木に育てる「知恵の木科」の推進

地域のもつ課題に気づき
課題：地域が大切にしていたり、もの、ことにはどんな願いが込められているのだろうか？
探究すること：地域にくらす人々の関わり、地域のよさや課題を発見、自分自身への気づきを深め

5～6年生

確かな将来設計図へ

地域のために自分にできることを考える
課題：地域のために私ができることは何だろうか？
探究すること：積み重ねてきたキャリア体験を通して、将来の夢を膨らませたり、自分が地域に役に立ちたいことができることを考える、夢や希望をもって進学をする

言語活動の充実

書くこと = 自分を整理すること、そのままでは消えてしまうもやもやとした「感じ」や「おもい」にカタチを与えること、自分にも他者にも自分が見えるようにすること＝思考力、判断力、表現力の総体

話し合うこと = 一人では気付けなかった考えや試し方に出会うこと、自分自身の見方や考え方を深めること



【ちがいを】を【チカラ】に変える授業づくり

佐久平浅間小ベーシック

ちがいをチカラにかえる 教科学習における探究的な学び

自ら課題を見つけ、子どもと教師が個々の持っている知識や技能をもとに、考え合ったり試したりする中で伸ばす思考力・判断力・表現力

- 1 学習問題(問い)と見通し・かぎを子どもと共に据え、それらを中心とした探究的な学びの推進
- 2 言語活動の重視
 - ① 課題解決に向け、アウトプットとフィードバックで、1+1=3になるようなアイデア交換の時間
 - ② 【問い】や【振り返り】を大切に自分の学びを自分で語るように
- 3 個々の子どもの資質・能力を発掘・伸長する教室 Self Development Class (自己開発学級、通称 SDC) による多様な学習の場の提供
- 4 教師の持ち味・専門性を活かした学習の場の提供
 - 学年内授業交換

知識や技能を習得し友と知恵を出し話し合ったり試したりしながら知識や技能をどう使うか 何ができるようになるか 考える力を身につける

- 子どもとともにつくる授業(教える→一緒に考える)
- アイデア交換タイム(ペア、グループで知恵を出し合って、課題を乗り越える)
- 教師による添削と励まし
- 子どもの表現したもののから育ちを評価

佐久平浅間小ベース

佐久平浅間小が大切にしてきた伝統

ちがいを尊重し、笑顔で誠実に生きるための3つの愛言葉～「笑顔」「寛容」「正直」～

1 笑顔

- ・みんなで守る【えがお宣言】
- ・笑顔で元気に「ハイタッチ」あいさつ
- ・ハーモニーロードに広がる「歌の交流・おもてなし」

2 寛容

- ・「ごめんね・いよいよ」で寛容に生きる(正しい心・ちがいを認める心)

3 正直

- ・正直の神様が住む学校

寛容

正直

◆えがお宣言
自信「いよいよ」「すいいね」自分のいよいよ、友達とのいよいよを見つめます。
絆「○○さんおはようご名前を呼んであいさつします」
協力「いよいよにやろう」「手伝おうか」助け合い乗り越えます。
素直「ありがとう」「ごめんね」を伝えます。
決意 いじめはしません。許しません。

《令和8年度の児童会提案》

子ども力

- ・『自分から』の取り組み
- ・児童会
- ・日々の授業
- ・清掃無言、靴そろえ、あいさつ

【エンジョイ宣言】

～全力でたのしんだもんがち～
・全力で楽しんでくださのお友だちをつくろう!

花はあざむきで400人!
花はあざむきで400人!

全校で仲良くする! 笑顔いっぱい学校になる! できるできないじゃないやらかやらないかだ

教師力

- ・変化を見逃さない
- ・保護者との連携
- ・最適と考えられる対応
- ・相談窓口の設置(校内2カ所)

保護者力

- ・家庭での子どもの見守り
- ・小さな変化にも気づく
- ・親子でつくる花いっぱい学校
- ・PTAなど様々な活動への積極的な参加

外部力

- ・いじめを防ぐための、SC(スクールカウンセラー)による面談
- ・児童相談所とのケース会議
- ・SSW(スクールソーシャルワーカー)による様々な機関への橋渡し
- ・各種講演会の開催

地域力

- ・知恵の木科(総合的な学習)における講師
- ・ボランティア協力
- ・コミュニティースクール推進委員会(サポーターの会、民生児童委員、コーディネーター等)